

芸術と文化

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義は主に西洋美術の歴史についてお話しします。有名なレオナルドやラファエッロなどの巨匠たちの名画からあまり知られていないオランダ絵画、さらに建築や家具、宝飾品などさまざまなジャンルを見ていきます。

講義のなかでは実際に作品の写真を見ていただきながら、それらがどのような形、色彩、構図をもっているのかなど分析します。入門的なコースですので、美術史の方法論（様式論、図像学、図像解釈学）について最初に理解し、それら方法論を使って、まずは目に見える視覚的情報を的確にかつ詳細に言語化する能力を鍛えるところからはじめます。毎回学生の皆さんの発言を交えて進めますので、この講義が終わるころには、これまでと違ったイメージの見方が身につけていることを実感されるでしょう。美術を単なる鑑賞物ではなく、人類の歴史を紐解くテキストとして読み込みます。そのために必要な多面的な角度から物事を見る力と、自ら思考する力を身につけることもこの授業での目標となります。

■**到達目標**：①美術作品を分析するための方法論（様式論、図像学、図像解釈学）の理解とトレーニング。
②専門用語・専門知識の習得、およびイメージ・リテラシー（図像の読み方）を学ぶ。
③実際に自分たちの力で図像分析し、敷衍して社会や歴史的事象を分析的に見直す知を身につける。

■**担当教員**：望月 由美子

■授業計画・内容：

- 第1回 オリエンテーション：イメージの歴史を学ぶことの意義と方法論
- 第2回 ルネサンスの芸術革新 — 人間感情の誕生
- 第3回 ルネサンスの芸術革新 — 遠近法の発明と空間の誕生
- 第4回 盛期ルネサンスの美術：レオナルド・ダ・ヴィンチの世界観
- 第5回 北方ルネサンス：宗教改革前夜のネーデルランド絵画①
- 第6回 北方ルネサンス：宗教改革前夜のネーデルランド絵画②
- 第7回 バロック美術：対抗宗教改革期におけるカトリック教会の喧伝芸術様式
- 第8回 ディスクリプション作業
- 第9回 バロック美術：オランダ市民絵画におけるヴァニタス（はかなさ）の寓意
- 第10回 バロック美術：ヴェルサイユ宮殿と太陽王ルイ14世のセルフイメージ
- 第11回 ロココ美術：愛妾ポンパドゥール夫人の時代と文化
- 第12回 ロマン主義の美術：フランス革命期の疾風怒濤の時代とヨーロッパ絵画
- 第13回 19世紀リアリズム、ラファエロ前派：産業革命期のヨーロッパ絵画
- 第14回 印象派
- 第15回 指輪物語～リングの歴史と思想について

■**教科書**：使用しません。授業毎にレジユメを配布します。

■**参考文献**：必要に応じて適宜お伝えします。

■**成績評価基準と方法**：主に図像分析の課題と講義終了時のレポート形式の試験で評価します。但し、出席回数が規定（10回以上）を下回る場合と、授業態度について著しく問題がある場合は欠格とします。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	専門用語、様式の見方、作品分析の手順の理解度、および実際の分析内容を見て総合的に判断します。	70
課題	◎	○		ディスクリプションの精度によって評価します。	30
授業態度				積極的な発言など	授業中の携帯電話やPCの使用など、電子機器使用者は欠格要件となる。
出席				10回以上の出席 遅刻3回で1回欠席とみなす	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：